

国内市場 賞味期限延ばすMAPガスにフォローの風 | 日本液炭、山口・宇部に工場新設 | 三井・ケマーズ、次世代低GWP冷媒、再生冷媒を包括的に供給する提案営業を開始 | タイヘン、アルミと亜鉛メッキ鋼板を接合できる溶接システム販売開始 | アドバン理研、複数ユニット内蔵型窒素PSAの能力を拡大 | 山陰酸素工業、EMS利用の省エネ効果保障サービスを業界初開発 | マツモト産業、ヤサカ産業を完全子会社化 | 岩谷直治記念財団、第46回岩谷直治記念賞・岩谷科学技術研究助成の対象案件が決定

複数ユニット内蔵型窒素PSAの 能力を拡大 最大120³m³/hまで アドバン理研

アドバン理研(辻泰成社長)は、複数の吸着ユニットを内蔵することで、省エネ・低騒音を実現した窒素PSAの新製品を開発中だ。

現行製品であるNHPSシリーズの最大能力は60³m³/h(4N/0・69MPa時)だが、新製品は倍の120³m³/hとなる見込み。来年3月の受注開始を予定している。

同社のNHPSシリーズは吸着槽に第二種圧力容器の適用を受けない容積40ℓ未満のアルミ製タンクを採用。能力を上げるために複数の吸着ユニットを使用し、能力に応じて2〜9ユニットを内蔵してい

る。言い換えれば複数のミニPSAユニットの内蔵により、1台のPSAを構成している同社独自の製品である。

NHPSシリーズは累計出荷が200台以上に達し、リピート需要も増えていることから、能力を拡大させた新製品を開発することにしたもの。

新製品はNHPSシリーズと同様の発想で、第二種圧力容器の適用外となるアルミ製タンクを採用。保有特許である「台数制御省エネ運転技術」で吸着ユニットを制御する。低圧コンプレッサ(0・69MPa)を前提とした設計とし、NHPSシリーズの特長と

なる小型・省エネ・低騒音を踏襲させる。

またアルミ製タンクの量産に備え、同社は約3000万円を投資し、来年6月を目途に大型NC旋盤を本社工場へ導入。作業の効率化、自動化を図る。

なお、今期の業績については台湾への輸出、昨年度に納入した食品向け窒素PSAの追加注文などがあり、11月まで売上高は過去最高だった前期に対して4%増で推移している。

辻社長は「OEM提携する協力会社がどこも好調で大変有難い。協力会社が自信を持って提案できる品質の高い製品を作るのが当社の使命。新製品にも期待して頂きたい」と語った。